

独特な文化拠点の芽を
楽しく見守ろう

伊丹市立美術館
嶋田 勝次

神戸大学建築学科教授

八三年秋文化の日に供諾の殿堂
柿衛（かきもり）文庫館が完成し
て数年も経過していないのに、もう
う次の段階に入つて來た。安定成
長の時代にふさわしい豊かな場
くりをこの機会に積み上げようと
するところみが、次々と実施され
て來ているのである。

この辺は阪急電車の伊丹駅に近く、伊丹第一ホテルも新しく誕生しているし、小西酒造の本社にも近く、県道尼崎伊丹線と共に伊丹豊中線の拡幅整備の取り組みが、具体的な形を表わして来ている。更にこの辺とはさほど遠くはない旧国鉄の駅前再開発も、着々と

進み、建築の竣工も近い。



祐衛文庫

伊丹は古いまちなみにあふれる歴史文化都市であるが、近年の阪神間の都市化の波は、深く広い文化の底流を沈潜させてしまつて、産業都市としての顔がちらついたりして、久空港都市としての世間体が大きくクローズアップされたりして、長い間培かわれて来た底流は見えなくなつて来てしまつた。しかし取り残されていたかに見えたところにも陽が当つて來た。伊丹の古いまちなみにも、ボソボソの頃、ちっぽけながらひとつまちの拠点がふくらんで來た。

この柿衛文庫館について、その増築の建物が八六年春出来上つて、新しい酒蔵様の姿を、伊丹市の宮の前の都市の辺りの一角に表わして來たのである。

国文の伝統と近代美術の奇妙な組み合わせを面白く感じた。

発展は、量的拡大ではなく、質的に高さをどうアレンジして行くかにかかるところを感じて来る。

それにもしても、豊かな文化のかおりは、市民も行政も同じ意識を持ち、よりよい方向を見つめて行くことだと思う。確信が強くなっているのである。

この建築の計画は亡くなられる直前まで検討にかかるわられた伊丹在住の建築家故西沢文隆氏（坂倉建築研究所代表）のたくまぬセンスが見られる。伊丹の古くからのまちの中心に新しい美術の拠点となる芽生えを楽しく思いながら、街の

この新しい建築の横に岡田氏のところの文化財ともなっている古い酒蔵が残っていて、伊丹市長さんの話によると、この酒蔵などと一緒に考えてながら、軽食喫茶室などの利用を検討しているという。ほんもの指向とレトロ感覚をうまくまちなみ保全にまで活用しようとする意図の中に、伊丹らしい都市景観への配慮が見られる。

クションを収集されたが、亡くなられる二ヵ月前にそつくり伊丹市へ寄贈されたのがきっかけとなつて文化の芽生えの種が蒔かれたといえよう。これからどんな芽が出て来るかが楽しみだが、その文庫館に美術館の建物が増築され、ランス近代の彫刻と家具の展覧会が行なわれたのである。

こんにちは赤ちゃん



箱田理紗ちゃん／芦屋市業平町

「あんよも上手だヨ！」

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科



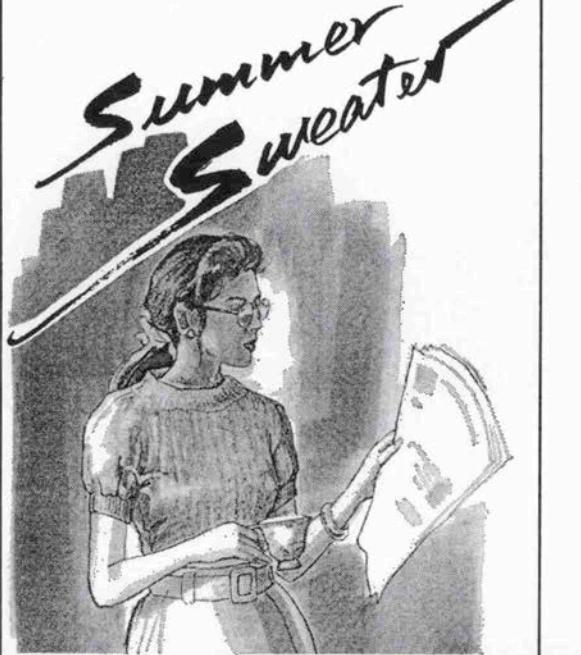
芦屋市大柄町1番18号

芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

FASHION TALK

JUN



汗にご注意下さい。これからシーズン、汗が大きな問題ですが、サマーセーターの場合、間隔があく、素肌に着る、そして汗を吸い込みやすい、汚れやシミが見えにくいなど、その性格から、汚れをより優雅にしてしまいかがちです。着た後は、風通しの良いところで裏返して湿気をとる、こまめにクリーニングをする……を実行してください。

Since 1933



本社／神戸市灘区記田町1丁目2-16
078-851-2440

■大阪支社/06-853-1332 ■つかしん店/06-420-3754 ■ローブ・ニシジマ/078-332-2440

■山手店/078-221-2440 ■宝塚店/0797-72-0810 ■リフォーム・フルフル/078-221-9110

猫に捧げる

三枝和子 〔作家〕え・元永 定正

こんな詩があります。読んでみて下さい。

ワインのような匂いだったよ
死ぬ間ぎわまで

にゃん太へ
高塚かず子

捨てられたんだね
六年前 紫陽花の陰でふるえていたね

顔を寄せるごろごろいったね
口のそばにぶちがあつたね

やつと慣れてからもおとなしかったね

庭に座るときの
お気に入りの場所があつたね

おなかがすいても
お皿の前でじっと座つて待っていたね

そこを深く掘つて
タオルでくるんでさよならした

みんなの後で食べていたね
はじめて啼いたのは 雪の朝

土のなかはあたたかいね
仲間たちも眠つているね

ドアからびゅうと走つていったね
犬みたいに喜んでいたね

宿根草の花苗を植えようね
おまえのようにじみな花がいいね

ねずみをしとめて持つててくれたね
具合が悪くなつても ふらふらしながら

新聞紙のトイレにいったね
粗相していいのよ 気がねしないで

そう言つてもがんばつていたね
死ぬ日にだけ やつと私に始末させたね

首をかしげる癖があつたね
ベッドカバーとタオルを洗うとき

にゃん太のおしつこは臭くなつたよ
おまえのちいさな内臓が

けんめいに戦つたごはうびだつたのか
「ラ・メール」という詩誌の今年春号に掲載さ

れた作品です。「ラ・メール」は、ご存知の方もあると思いますが、詩人の新川和江さん、吉原幸子さんの主宰する女性詩人たちの雑誌です。作者の高塚かず子さんは、この雑誌の会員らしく思われます。

らしく思われます、というのは、「ラ・メール」には投稿欄がある、その中の「会員作品欄」に、犬と猫の詩、写真、カット絵などが発表されています。表場所があるのを、私は常々、とても素晴らしいことに思ってきました。おそらく、主宰者の吉原さんの思想が反映されているのでしよう。いつでし

s.motonaga '88

たか、彼女と対談したとき、吉原さんが、犬、猫を単なるペットとしてではなく、人間が人間以外の生きものに繋がっていく通路みたいなものとして接していることを知つて、大変感動したことを憶えています。

高塚さんがどんな方か、何歳くらいで、既婚なのか未婚なのか、お子さんがあるのか、お仕事は何か、全く見当がつかないのでですが、私は言うに言えぬ親近感を持ちました。私は犬猫、特に猫が好きですが、それはただ可愛いという以上に、何となく、人間より猫が好き、という気持を含んでいます。人間が死んだって、身内の誰れ彼れが死んだって、私は、この詩を読んだほどにも泣かないと思います。最近人間という生きものに、何だか、ちつとも健気な（もうこんな字、読めないひともいるんじゃないかな、死語になつて、ケナゲ、という言葉です）ところがなくなつた、理不尽な（この言葉もダメかなあ、リフジンと読みます。いわれなく、本人の責任でなく、ひどい目にあわされることです）状態におかれると、社会が悪い、親が悪い、先生が悪い、とすねたり、ぐれたりしてバランスをとります。にやん太のように、「やつと慣れてからもおとなしかったね」「みんなの後で食べていたね」なんて姿勢、くすりにしたくもないよう思います。もちろん、私も含めて。特に私なんか、現在の男性優位社会で、女性がどれだけ理不尽な目にあつて、いるか、声を大きくしてわめきたてているんですから。
もつとも、わめきたてながらも、相変わらず御飯ごしらえをし、後片付けし、しまい風呂に入つてから原稿を書く身分ですから、にやん太の詩に大泣きに泣いたりするのかもしませんが。

成熟した文化的蓄積の上に 新しい感覚の都市づくりを

石原慎太郎

△運輸大臣▽

石井

一 △衆議院議員・自民党副幹事長▽

神戸出身で作家・衆議院議員の石原慎太郎氏が竹下内閣の運輸大臣に任命され活躍中である。そこで兵庫一区

(神戸市)選出の石井 一代議士と対談をお願いした。

世界を“同心円”で見る



石 原 慎太郎 さん

石井 神戸出身の大臣が久方ぶりに出られたので、神戸っ子は期待して喜んでいるんですが、貴方が神戸に住んでおられたのはいつごろですか。

石原 僕は神戸の須磨大手町に生まれ、五歳迄いました。その後小樽へ行って、湘南へ戻ってきたんですけど、神戸

という港町に生まれて、あの頃国際的な港だった小樽へ行ったことが、私のいろんな物を作ってくれたと思いますね。

神戸の記憶はもの凄く鮮烈にありますよ。近くに学校か何かがあつてサイレンが鳴る

のが恐くてね。サイレンが鳴ると家へとんで帰ったのを覚えています。

それから、すぐ家の裏に山陽電車が走っていて、あれを僕は執拗に襲つたんです。線路に石乗っけて、ひっくり返してやろうと思ってね、かげで隠れて見てただけど。

石井 危ないねそれ。(笑)

石原 そうすると運転士が降りてきてね、いまいましそうに石をどけてね。運輸大臣になつたからこんなことは言わん方がいいと思うんだけど。(笑)

我々共に自民党の中での国際派であるわけだけど、日本人というのは世界が見えるようで見えてなくってね。日本にとっては日本という世界と、それと別に日本以外の世界があつて、同心円じゃないんだ。世界の中の日本じゃなくってさあ。そういう世界観しか持ち得ないんだな。

そういう点では我々は同心円という意識で世界を眺め

られる数少ない政治家なんじやないです。

石井 今のお話でねえ、日本人が「外人」で言うでしょう。悪い言葉ですね。外の人って言うんだから。こっちの中は見せない訳だから。そういう島国的なものがあるんですね。

石原 そう、外人とか、毛唐とか。正しく毛が違うんだからね。毛唐の中には、中国人とか韓国人とか東南アジアの人は入つてないわけで、やっぱり白人なんだろうねえ。

そういう点では日本は容易に鎖国も出来た国だし、鎖

国は鎖国の効用があつたと思うけど、そういう世界観しかない中で、神戸っていうのはハイカラな日本には珍しいエクゾティズムのある街だと思いますね。

石井 まあ、神戸と外国の都市との関連っていうのは非常に深いんですね。今、七つの都市と姉妹都市提携をしてるんです。米のシアトル、仏のマルセイユ、ブラジルのリオデジャネイロ、中国の天津、ソ連のリガ、オーストラリアのブリスベン、米のフ

イラデルフィアと。

石原 浮気だねえ(笑)。

石井 それは向こうから申し込んで来たか何かでしよう。

国際港ですから。港町同士といふのは、シアトルとロツタルダムと天津なんです。

貴方のような立場で世界を回つたりしておられて、今の神戸に対して、どういう印象を持たれますか。

石原 やっぱり、僕は海が好きなんで、港も好きなんだけど、横浜なんかは港町の感じが希薄になり、のっぴりとした大都市になつちやつたんで

石井 一さん



すけど、神戸は港の雰囲気・情緒というものをまだ持つていて、山も迫っていて、立体的な美しい街だと思います。

特にポートアーランドは、神戸らしい非常に前衛的な試みと綺麗だな。

ポートアーランドは、神戸らしい非常に前衛的な試みですね。日本で初めての試みでしょう。

進む神戸のイメージエンジニアリング

工業都市からファッショントリニティ都市へ

石井 以前、僕が、神戸と聞いて何を思い出すかというアンケートをみたら、昔は工業都市とか、港町とか、こういうイメージだったんです。今はだいぶ変わってきてね。今神戸が街づくりの柱にしているのはファッショントリニティ都市、コンベンション・シティ、それから国際スポーツ都市です。

それでいろいろと体育館を作ったり、運動場を作ったりユニークなアーチをやったり、来年フェスティバルという身体障害者のスポーツ大会をやりますし、そして山を削ってポートアーランドや六甲アーランドを埋め立てるための土を探つた跡を開発して住宅地にした。そしていわゆるウォーターフロント開発をものすごく推進して來たわけですね。

イメージエンジニアリングがかなり進んで來る面もあるわけですよね。

石原 横浜みたいに平たいとね、厚木のあたりまで人が住んじゃって、それがみんな横浜に集中して來るとゴタゴタしてね。

神戸の場合は六甲山に南北が遮られているから東西に開けざるを得ないし、そういう点では街の特性が失われずには羨ましいと思うな。

横浜にも元町っていうのがあって、神戸にもあるわけだねえ。両方の元町が洗練された街の代表格だったんだけれども、横浜の方はこの頃ちょっと疲れちゃった。そ

ういう点でいくと三宮元町・トアロードは昔ながらの洒落たナウい感じがいつまでも残っていていいですね。

石井 若者は絶対神戸に来たがるんじゃないかなあ。

だから観光都市的なムードが最近出てきたし、今ホテルブームがものすごいですね。今度新神戸の駅前に出来る新神戸オリエンタルホテルもものすごく大きい洒落た建物でけど、それからオーラークラとニューオータニも出来て来る。

期待十分な神戸沖空港

これからは海上空港の時代

石原 しかし空港を造り損なったのは神戸にとって痛恨だねえ。以前、市会が反対決議をしたんですね。

石井 あの時は、ものすごく公害問題がうるさく言われた時代でねえ。空港の事は言えない時代だったんですね。ところが今は事情が変つて來ている。時の流れっていうのは、恐いものでねえ。

あの時大臣の言われるよう、市長や市民に先見性があつて、神戸に空港が必要だという判断をしておれば、出来てたんですがね。

石原 関西新空港は大プロジェクトですね。ただ問題は市街地とのアクセス。空港へ行くのに何時間もかかるといふのは困る。

石井 利便性とか、経済性とか、採算性とかが一番重視される時代に適合できるプロジェクトでないとね。

また現時点の航空の利用であれば、新空港が出来れば伊丹や神戸に空港は必要ないという考えもありますけども、実際問題として九州だけでも七つも八つもある。四国でも各県にあるんですから、二千何百万いる関西エリアでは、空港が一つや二つじややっていけない時代が既に目の前に來てるんですよ。

石原 関東には信じられないくらい飛行場がある。関西でも関西新空港が出来、神戸空港が出来たとなると空がかなり超密になって非常に管制が難しい地域になるでし

ようなあ。

泉州沖では、片方に住宅地がある、一方には六甲山があるでしよう。どうしても空域がせばまる。まあ、その頃にはマイクロウェーブを使った新しいものが出来てるだろうからそれに期待してるんですが。

石井 そりやあもう、世界一高い飛行場ですよ。しかも九時になつたらビシャツと駄目になりますからねえ。あれくらい高くしかも欠陥性を持つた空港はないんですけど、今のところ、関空、関空って言つたところで出来るのまだ五年や一〇年かかるから、あれが唯一ですかねえ。これだけでも日本は航空後進国ですよ。石原 羽田と伊丹と成田がそれぞれ終了時間が違うっていうのは困るんだよね。

東京と大阪神戸のメガロポリスが日本の中心でしょう。最近、日本でもどんどん空港を造つてゐるんだけど、所詮中都市。ところが人が集中するのは、中都市じやなくてやっぱり関東と関西のメガロポリス。その空港がみんな片肺だから、何のためにジェット空港を地方に造つたか判らなくなる。特に伊丹なんかはかたくなに便数をシャットアウトしてゐるものだから。地元に行つてもう少し緩和してくれつて頼んでるんですが、なかなか難しいんですよ。

本当に神戸沖空港は今になつて思えば石井さんの先見性のしからしむるところで、今ごろ評価されても、貴方は冗談じゃないと言うかも知れないけど。(笑)

石井 いやいや、しかしあくまよとしたら出来ますよ。関西に住んでる人のアクセスを考えた場合に最適な位置にあるわけですね。たとえばビルの横を飛行機が入つて行くような事は出来ないということになれば、海上空港というのは非常に条件の整備された空港になるわけですから、そういう面でも神戸沖空港は期待十分ですよ。

明石海峡大橋がいよいよ着工
測り知れないその波及効果

大臣は海がお好きなようですね。

石原 僕は海に縁がありましてね、神戸に生まれて小樽に行つて、その後、湘南という風にずっと海の側でした

でも伊丹はずいぶん高い飛行場だねえ。



神戸の想い出に始まり、空港問題、文化問題へと話は盛り上って行った。

から。

戦争中の小樽っていうのは非常に進んだ街で、都市銀

行は札幌じゃなくて全部あそこにあつたんですよ。神戸は代表的な港町だし。湘南地方っていうのはそれこそ日本

のコートダジュールだし。湘南地方っていうのはそれこそ日本

ときどきそこでヨットレースやるんだけど不便なんだよ、現状は。

石井 陸続きの効用っていうのは大変なものですね。関西の二千万の人口と四国の五百万の人口が直結するというだけでなく、新鮮な作物が短時間に輸送されるなど、いろんな関係での日常生活までの影響というものは、予想以上に大きいと思う。

石原 それに淡路全体が他の都市じゃなくて、神戸と直結するという事になれば、やっぱり徳島も大きな影響を受けるだらうな。

日本で一番ヨットの似合う町

それは神戸

—— 最近ウォーターフロント開発が注目されていますが、神戸港にヨットが入れないものか、という街の人の声なんかもあるんですよ。

石原 これは汽船が入る領域と分けないと、危険なんですよ。汽船の横をヨットが走ってると、なかなか良いもんですが、海上交通安全上の問題がありましてね。ちょっと離れたところにマリーナを作った方がいいです。

—— 街のすぐ近くにヨットが浮かんでいると非常にいい点景になるという話がありましてね。

石原 リビエラみたいにね。向こうはリゾートだけど神戸は商業都市だから同じ様には行かないけれど、でも一番ヨットの似合う街ですよ、神戸は。

は安くて旨いけど、あそこには住んでる奴はかわいそうだなって思ってた。しかし後輩なんかが転勤になると、おまえかわいそうだなって言つたら、帰つて来た奴が石原さん大阪つてとても良い街ですよって。東京と違つて人情はあるし飯は安くて旨いしつつてね、とにかく人情がいいって言うんだ、東京に較べると。

それは判るんだな。大阪に良い友達がたくさんいるから。大阪と神戸ではそんなに変わりませんか。

石井 ちょっとムードが違いますね。

—— 神戸にはやはり神戸風文化と言うものがありますね。大阪は大阪で浪速の伝統というものがありますね。

石井 でも、神戸の問題点というのは割合に土着の人がないなくてねえ、寄り合い所帯ってところがあるんですよ。石原 横浜も人が好いですよ。良い仲間が多いですよ。神戸にも良い友達はいます。

東京の人間は本当に底意地の悪いところがあるけど、なんかとげとげしてね、あんまりいうとなんだけど(笑)それに神戸は六甲山があるのがいいよね。

—— クルマで三〇分走ると年中札幌と同じ気候の場所に行けます。願つてもない環境です。

文化は行政がつくるものではない
国民一人ひとりがつくるものだ

—— 現在は経済活動ですら“美・感・遊・創”的時代であると、これは通産省が言つておるわけで、いわば文化主導の時代と言われています。

でも、日本の文化行政というのは世界的に貧弱なんじやないかなと、思うんですが。

石原 僕は日本というものは文化度のきわめて高い国で、もともと成熟した国家だし、江戸時代の鎖国がもたらしましたが、最後に文化ということについてコメントを頂きたいと思います。

産業革命が始まる前の中世ヨーロッパなんてのはただの城塞都市でね。それを思えば日本のこれだけの国土を覆つた文化ってのは素晴らしいものです。町人だって手紙だって飛脚で江戸と九州を往復したし、郵便制度

だつてあった。
日本にも産業革命は必要だったろうけど、真似から始

まったくからずいぶん無理しましたねえ。社会资本もそろだし、文化資本もそうだけど、一部壊してまでね。

しかし日本人は世界に比類のない民族だと思う。ただ、これから本当の成熟を遂げていくには、見過ごした物を思いだしていくしかないのではとも思いますね。神戸のようなハイカラばかりに憧れても仕方がないのですね。

石井 なかなか難しい問題だけれども日本の文化というのはようやく世界にも認知されてくるんじゃないかなと思うんですね。我々が思つてる以上に良いものを持つてるとと思うんです。

いま日本の経済力がものすごく伸びているから批判があるけど、今後そういう面で、外交的分野で国際的責任を果たすという事と、それと車の両輪のように日本の文化的な伝統的な良いものを理解して貢えるようになったら世界に貢献する日本になると思う。

石原 しかし文化ってのは、行政が作るもんじやないからね。政治がそんな風に自惚れたら大変なことになるので、やはり国民全体がつくりだしていくということが大切ですよ。

八一九八八・四・八運輸大臣室にて▽

(文責・編集部)

美

術夜話〈1〉

増田

洋

（武陽会員）

ひろみ

五本の画道が 交差する 武陽会美術展



上／オープニング日の東山魁夷夫妻 タイトル内／小磯良平画伯の絵に見入る人々

県立兵庫高校の創立八十周年記念の武陽会美術展には中山正實、古家新、田中忠雄、小磯良平、東山魁夷の作品が展示された。文化勲章を受章した小磯、東山はよく知られているから、ここでは他の三人のプロフィールを紹介する。

中山正實は大正四年旧制神戸二中を卒業、旧神戸高商旧東京商大へ進んだ。油絵は独学で学び、大正四年には友人たちと神戸洋画会を結成している。大正十年の第三回帝展に初入選となり大正十三年にフランスへ留学し、フレスコと油絵の両方で壁画技法を修得した。同時に銅版画技法も修めている。帰国後は第八回から第十二回まで連続して帝展に入選し、高い評価を受けている。昭和七年母校の神戸高商図書館の大壁画制作の依頼をうけた金山平三が帝展松田改組に際し帝展不出品を宣言して美術団体と絶縁したことも影響したようだ。中山の四年にわたる留学も、金山平三の助言で決心したものであつた。その後、中山は壁画一筋に進んだが、戦後は日本版





東山魁夷氏（右から 2 人目）と田中忠雄氏（左から 2 人目）を囲む

画協会員となり色彩銅版画技法を確立してこれを広め、版画隆盛に貢献した。一九七〇年の万博では、二中の後輩田中忠雄と共にキリスト教館の運営に携わり、その縁で日本キリスト教美術協会が誕生する。その創立には、今ひとりの二中卒業生小磯良平が参加する。中山は昭和五十四年八十一歳で没した。

小磯と田中は平野小学校での同級生であったが、二中入学では小磯が一年遅れ一年先輩後輩の関係になった。

当時の二中には絵画のクラブ活動があり、その創始者が古家新である。古家新は大正六年二中を卒業、京都高等工芸へ進む。大正十年朝日新聞社に入社、二十年にわた

つて学芸を担当した。とくに演劇評論に秀れ、軽妙な文章と挿絵には定評があった。その一方で、信濃橋洋画研究所で鍋井克之に師事、やがて講師となり、昭和四十四年朝日を退社すると共に二科会員になったが、戦後は田中忠雄らと行動美術協会を結成する。昭和三十六年、六十四歳のとき小豆島にアトリエを建て移り、昭和五十二年八十歳で没した。

小磯良平は古家新について一文をのこしている。——つまりところ古家さんは一本すじをとおしたきびしい生活態度を、今までくすらないで持ちつづけている人である。世間でのいわゆる余分なものを持ち歩く人ではない。彼の芸術は今日まで一貫して変化していない。彼の生活ぶりと同じである。彼の相手は自然しかない。——略——魚つりの名人の頭が魚の在り家で地図が出来ている様に、古家さんの頭の中は自然の構図でいっぱいである。彼は小豆島にうつり住んでから絵が出来て出来て困ると言い、他にすることがないと言う。それにちがいはあるまい。中央にうごめく人達と対比して、逃避ともとれる一種のレジスタンスとも見られよう。そう言う孤高な姿をどことなくただよわせている人でもある事は誰もがみとめている——（画集古家新「古家新さんの事」より）

田中忠雄もまた京都高等工芸へ進んだ。戦前の二科、戦後の行動美術と古家・田中の盟友関係は続く、田中忠雄は心の温かい人である。武陽会美術展に出品した「彼女の目はひらかれた」（一九六七年、二三回行動展）という作品の裏には、「田辺三重松君の眼の回復を祈つて描く」と書いてある。田辺は古家・田中と共に行動美術を創立した人である。田中忠雄はステンドグラス制作でも秀れた仕事をこしている。教会建築の仕事もある。中山、古家、田中、小磯、東山それぞれ独創の画道を確立した画家である。その五本の道がふるさとで交差して武陽会美術展として浮かび上った。一つの学校から、このように画家が輩出することは類い稀なことである。

・珈琲飲みながら……

昔の神戸ほど 素晴らしい所は なかつたネ。

野坂 昭如さん 〈作家〉

★昔の神戸は山、川、海、そしてハイカラな町
神戸ってのは昔は本当によかったです。まあ、全く僕の郷愁にすぎないんだけどもね。僕は灘区にいたから、ちょっと歩けば山に入っちゃうし、反対にちょっと行けば海に出ちゃう。山へ行けばヘビだとかがいるし、川へ入って石をこう、上げると、カニがいっぱいいる。海は本当の海。真っ白な砂浜があつて、魚も釣れるし、ヨットもボートもいくらでも乗れるし。向こうの方に神戸商大、今の神戸大学経済学部だけど、あそこ連中のヨットが走ってて、僕らはそれを見ながら泳いで、上がつて来ると、甘酒屋で甘酒飲んで。

それでいて、阪神でも阪急でも、電車で5分か10分くらい行けば、今度は当時の日本の最先端を行く文物があるわけね。トア・ロードなんて今どろじやないですよ。もっと豪華だった。で、元町があつて。三宮から大丸の方へ来る市電の角に、ユーハイムがあつて。元町の裏側が南京町で、中華料理の美味しい店があつた。今のがルメなんていうのじやなくて、レストランにしても本当に美味しい店が多かつた。今も「ハイウエイ」とかありますけどね。山手の方へ行けば父親が友達である外国人の家がたくさんあって、今、風見鶏の館がどうとか言われるけど、あんな所には年中行ってたね。

垂水辺りには釣り宿がいっぱいあつてね。須磨は須磨公園つていう人工的なものが昔からあつたけどもね。舞子はきれいな松林があつて、あそこは泳げないんですけど流れが早くて。六甲山のドライブウェイも日本で初めてで、車で上まで行ける。見下ろすと今はポートアイランドが見えるでしょ、昔はあそこは二つ防波堤があつて、それが神戸の市章になつてるんですよ。

今の神戸に電車で来た時に、夕方 芦屋辺りから六甲山のシルエットを見ると、非常に昔と同じに見えるんですね。ところが、御影で降りようが六甲で降りようが、もうどうしようもないものね。全く変わっちゃつてるでしょ。だから、ああいうものすごくハイカラな町と、僕の住んでた所は田舎ですよね、それが、阪急、省線、国道電車、阪神、その上にバスがあつて、ものすごい便利なんですよ。どっち行くのも10分で行けちゃうわけ。僕は昔の神戸みたいな町つてのは、なかつたと思いますね。

★今の若い人達は今までいい
戦争の時の飢餓体験は、僕にとって圧倒的です。15歳くらいまでの子供がああいうのを目の当たりに見ちゃうともう抜け出せませんね。ごく普通に生きていたのが、空

1930（昭和5）年生まれ。17歳までを神戸の御影で過ごす。自分自身の空襲体験を元にして書いた短編「火垂るの墓」は、昭和43年に直木賞を受賞。今年、高畑勲監督の手によって、アニメーション映画化され、そのキャンペーンで神戸を訪れた機会にインタビュー。神戸で過ごした少年時代など語っていただいた。

襲によって、自分の家だけじゃなく隣も、その向こうも全部焼かれてしまうわけですよ。一瞬のうちに、丸つきり変わってしまうんですから。頼りにするべき親もどうしていいか分からぬしねえ。食べるものはないし、どこへ行つていいのかも分からぬし、何もない所に、ボンと放り出されちゃった。周りを見れば、昨日まで一緒に遊んでた友達が真っ黒焦げになつて死んでるわけですよ。そういうのを一べん見てしまふと、やっぱり、かなり人生観変わっちゃうね。

僕は「火垂るの墓」の中で、四歳の妹と十四歳の兄の話を書いたけど、実際には僕はあんなに優しくはなかつたんです。僕の妹はまだ一歳四ヶ月の赤ん坊で、配給の大ズを、固いから口に入れてこう、噛んでね、妹に食べ

させようとするんだけれども、どうしても飲み込んでしまう。だから今も僕は、ごちそうっていうのは食べない、食べられないんですよ。妹に食べさせてやりたいって思ひがあつてね。映画の「火垂るの墓」は、本当に、僕はまともに見ていらなかつたですよ。あんなに優しくはしてやれなかつたですからね。

今の若い人達は今までいいと思いますよ。決して戦争はできないと思いますね。僕なんかは一べんやられてるから「この野郎！」って思うんですけど、今の若い人は優しいから。かえって僕らの方が危ない（笑）。

★神戸の女性は憧れ的なんだよね

神戸の女性っていうと、僕なんかもう憧れ的もいいところなんだよね。宝塚音楽学校、神戸女学院、県一、県三とあって、姉妹が近所にいたら、中にきれいな子がいたら「あの娘、宝塚に行けるで」と、こんな言い方をしてた。女学院は典型的なお嬢さん学校でね、県一、県三は名門だった。町内でこういうところへ行く女の子がいたらもう憧れの的だったね。今の中大の本部から阪急六甲の方へ降りて来る坂道があるでしょ、ああいうところをツイードのスカートをはいてカーディガンを着て、ラケットを持つて何人かがキャアキャア笑いながら降りて来る。小学校の2、3年の頃ですよ。テニスコートの傍でこう、見ててね。軟式じゃなく硬式だったね。女学生っていうのは僕にとっては、聖なる存在つて感じがありますね。今はだいぶ変わりましたね（笑）。

★日本の「アズナブール」なんですよ

僕はかつて歌手としてリサイタルも開いたけれど、神戸っていう所は冷たいですね。大阪、京都、神戸の中でも一番お客様が入らないのが神戸。いいものをみんな大阪とかで聞いてしまつているから。今も歌つてますよ。この5月にはパリへ行って「日本のアズナブール」ってね（笑）。夢だけはいつも大きいくらいですよ（笑）。



「昔の神戸みたいな所はないですよ」と思い出を語る野坂さん

経済ポケット ジャーナル



★“プライスクラブ”六甲
アイランドにオープン!

プライスクラブ店内

貿易商社ミツ

クラが

総合

4月30日輸入

品のま

たく

新しいショッピングクラブ

PRICE CLUB*をオー

プンさせた。

会員制をベースとした倉

庫販売で、入会金は不要。

年会費は個人会員の場合三

千五百円、法人会員の場合

三千円で一万円。特典として

30%の割引があり、その他

商品情報の提供・個人輸入

のアドバイス・海外の商品

買付ツアーやへの優待を検討

中。円高差益の還元で輸入

品がもつと身近に。

連絡先・神戸市東灘区向洋

町西6丁目(六甲アイラン

ド内)

857-0321



★“わかいタバコ”マイルドセブンFK新発売!

マイルドセブンFK

マイルドセブンをベ

ースに若々

しい個性を

光らせた“わかいタバコ”が

新発売。都会派ヤングのた

めのシガレットです。くれ

ぐれもマナーには御注意を

★KOBEオフィスレディ★

松井 晴美さん (25)

総合食品企業として躍進する日本農産

工業

の

業

務

部

門

とす

る

日本農産工業勤務関西支店

の

業

務

部

門

とす

る

の

日本農産工業勤務関西支店

の

業

務

部

門

とす

る

の

総務と経理を担当して5年目。資金繰りもまかされている関西支店の頼もしい花。趣味はテニス、スキー、お花、お料理と多彩。特にテニスは2年前に始めたとは思えない実力派。サーブがきまた瞬間の快感はたまらないとか。今後は乗馬にも挑戦したいと夢がいっぱい。好きな食べ物は年頃の女性らしく、ケーキと果物。色白でキュートな顔立ちにタマゴ色の制服がピッタリ。加古郡在住。

★NTT神戸副支社長に就任

読書とアメリカンフット

ボール観戦が趣味。長身で

若々しい風貌の青年副支社

長は40歳。10年振りの神戸

勤務ということだが芦屋出

身だけに土地感も思い出も

あり、楽しい仕事ができそ

うだと語る。今まで管理

ボーリング場が趣味。長身で

勤務

ということだが芦屋出

ボーリング場が趣味。長身で

勤務

ということだが芦屋出

身だけに土地感も思い出も

あり、楽しい仕事ができそ

うだと語る。今まで管理

ボーリング場が趣味。長身で

勤務

ということだが芦屋出

★ これから商業不動産は

どう
活かす
青木幸夫

プレゼンテーションの時代

青木 幸夫

△

株式会社エルアイシー代表取締役



青木 幸夫 代表取締役

● 商業不動産の現況
誰が悪いのか知りませんが、土地が異常に高騰したため、それを買って何かしようにも、採算がとれなくなってきた。商業不動産は、完全に頭打ちだといえます。

現在、低金利時代が続いています。そのため、3%や4%の利回りでもいいのではないかという発想をされる方がいらっしゃいます。しかし、今後金利が上昇し、高金利時代になりますと、これは根本から変わってしまいます。

● 不動産を活かす

これまで商業不動産は、投機の対象と見なされましたが、今はもう、その活用の時代に入つたと思います。つまり不動産を活かす

ということです。そこで問題になるのがソフトウエアです。コンピューターでもこれがないと、ただの鉄クズですから。

商業不動産の場合は、土地をどう活かすか、ということがソフトウェアです。今までは、売買でやつてこれましたが、これからは、それでは伸びません。私どもはその土地へ行けば、それをどのように活かしてほしいか、わかりますので、そこに最適の業種を選び、それに基づいて設計し、資金・コストの計算をすれば、絶対に問題は生じません。そうすれば、土地を10%以上の利回りで活かすことができるのです。

● プrezentationの時代

事前に十分調査、検討する。建ててから苦しまないために、

私は、現在はプレゼンテーションの時代に移行している、といえると思います。これは商業不動産においてはあります。すなわち土地がありますと、それに対してどのような計画があるのか、みなさんにお知らせして、その結果に基づいて、次の作業に移ればいいのです。しかし、それが今までできていませんでした。

また、テナント保証制度という誰も喜ばない制度があります。すなわち、設計事務所が設計し、工務店が入札して建てたうえに、テナントを保証しなければならない。これでは原価にもはね返りますし、人間関係にも影響を及ぼします。

● 私どもがお手伝い

重要なのは、プレゼンテーションを真剣に考えることです。今まで、そういう窓口がなかったともいえます。土地を活用したいと思った時に、相談に行く所がなかなかたわけです。そういうわけで、私どもがその窓口や相談所として、みなさんのお手伝いをしていかねばならない、と思っていま

株式会社エルアイシー
神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1
ポートアーランド国際交流会館7F
(078) 302-4009